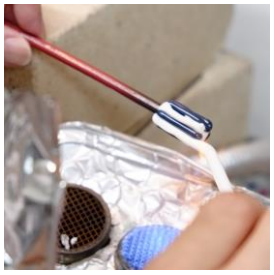
モザイク玉の作り方

ガラス工芸作家 松島巌さんに昔のやり方を考えながら、大変な苦労をして作っていただきました。

赤いガラス棒に炎で温めて軟らかくなった白いガラスを巻きつける

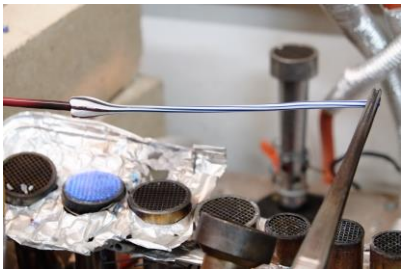
炎で溶かしながら白いガラスの上に青いガラスで線を入れる



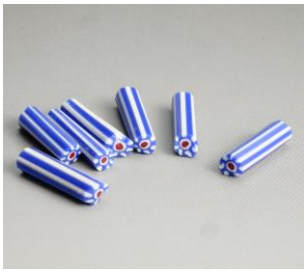
炎で溶かしながら青いガラスの線の間に白いガラスの線を入れる

炎で温めながら細長い形に整える

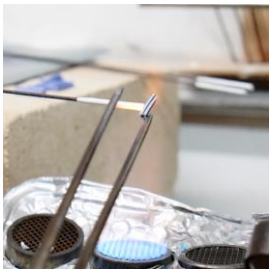
炎で温めながら端をつまんで伸ばしていく



炎で温めながらどんどん伸ばしていく

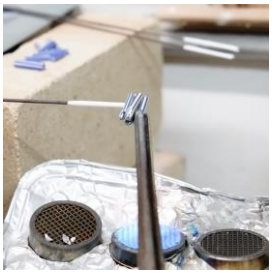


伸ばしたガラス棒を冷ましてから7本に切り分ける

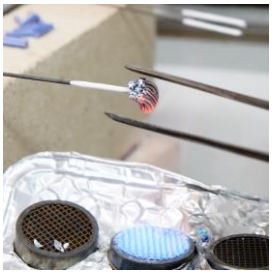


炎で温めながら金属の棒を7本の内の1本の真ん中に刺す

炎で温めながら棒に2本目を刺して、3・4本目を上下にくっつける

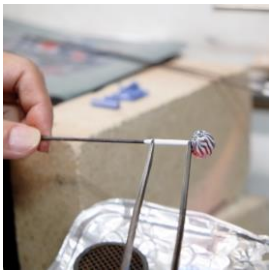


炎で温めながら棒に5本目を刺して、6・7本目を上下にくっつける



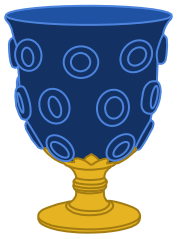
炎で溶かしながら形を丸く整えていく

かなり丸くなってきた様子



熱いうちに棒を抜いて、冷ますと完成

モザイク玉の仲間



瑠璃坏

高さ:11.2cm
幅:8.6cm
重さ:262.5g

瑠璃色(濃い青色)のガラスでできたコップ

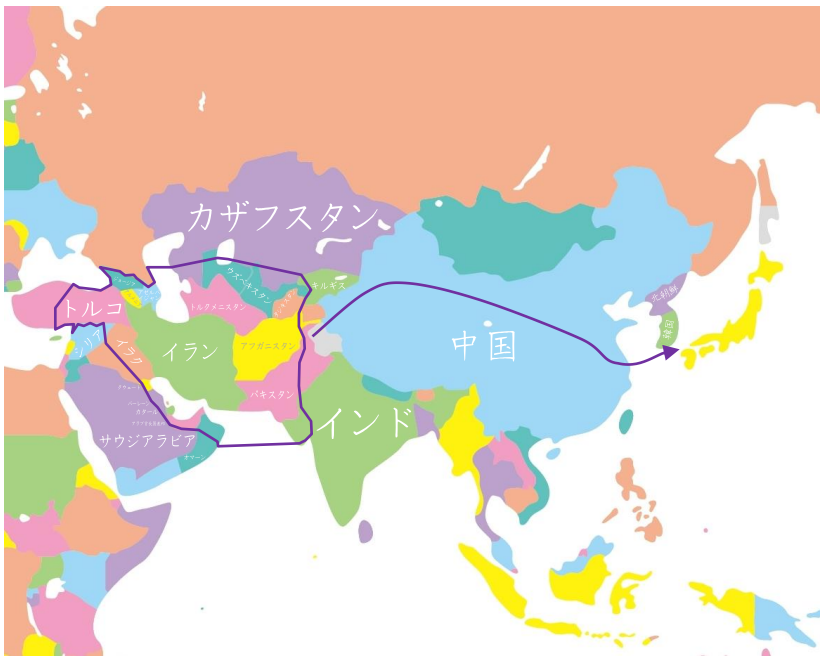
足の部分は銀でできていて、日本か古済(朝鮮半島にあった国)で作られた

上は完成品
下は完成品の真ん中を切ったところ

正倉院(奈良県)

東大寺正倉院に納められている聖武天皇(701-756)の宝物のひとつに、ササン朝ペルシアで作られた瑠璃坏があります。

遠くから運ばれたモザイク玉



ササン朝ペルシア(226～651年)の辺り

まとめ

今のところ、ササン朝ペルシアの難しい作り方で作られたモザイク玉は、日本では安造田東3号墳の他に見つかっていません。

モザイク玉がどうやってまんのう町に入ってきたのかは分かりませんが、外国の珍しい品物が日本でどのように広がっているのかを考える上で大切な例となりました。

まんのう町教育委員会 生涯学習課 文化財室 〒766-0202 まんのう町中通875番地 琴南公民館内 ☎(0877)85-2221 FAX(0877)85-2826

安造田東三号墳遺物

モザイク玉

安造田東三号墳遺物モザイク玉は、まんのう町羽間の古墳、安造田東３号墳から出てきたモザイクガラスビーズ玉(色を付けたたくさんのガラスを使ってモザイク模様を出したビーズ玉、略してモザイク玉)です。

平成２年に発見された時には、日本では他にない難しい作り方であることから、西アジアから持ってきた物ではないかと研究者たちが考えましたが、その頃の調べ方でははっきりとさせることができませんでした。

しかし、この頃になって奈良文化財研究所の田村朋美研究員が新しい機械を使い調べたところ、西アジア(ササン朝ペルシアの辺り)で作られたことが分かり、平成27年７月１日に発表されました。

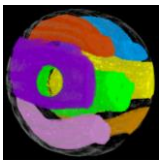
モザイク玉

本物はこのくらいの大きさ
直径1.45cm

英語の名前

横から見たところ

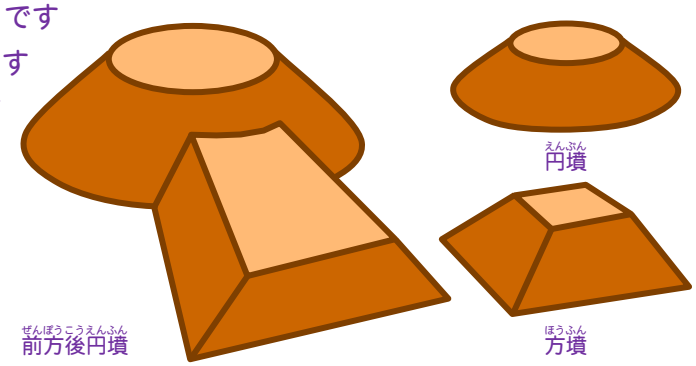
上から見たところ



CT画像(中の様子)

古墳ってなに?

- 今からだいたい 1800年～1400年前にたくさん造られました
- 山のように大きな、王の墓 です
- 古墳には色々な形があります
- 安造田東３号墳は円墳です



前方後円墳

円墳

方墳

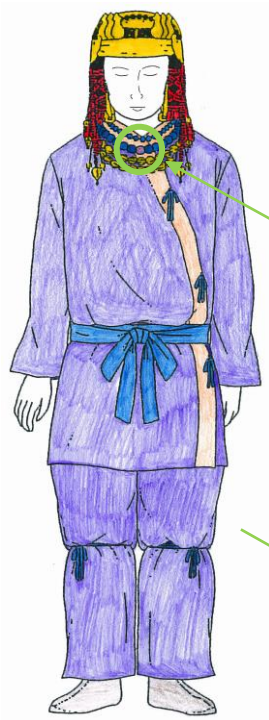
安造田東3号墳

外側の様子

入口の様子

中から見た入口の様子

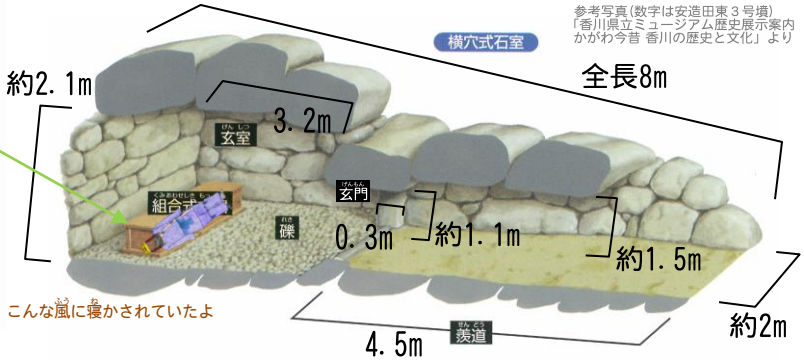
副葬品(お供え物)



モザイク玉はここ

亡くなった王の服(想像)

古墳の中はどうなっているの？



こんな風に寝かされていたよ